

学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

令和2年度

教職員自己評価

1. 集計結果の分析・考察

〔全体的な傾向〕

昨年に続き、総合判定は、すべての項目で◎となっている。ほとんどがA・Bの評価である。Dの評価は、0。C評価は、各項目1～4人である。

〔Aの評価がやや少ない項目の分析・考察〕

1 本校の課題を認識し、その解決のために教育活動を積極的に行っている。

教科や校務分掌に追われ、本校の課題という全体的な視点まで、取り組む時間が不足しているのではないかと思われる。

7 欠席・遅刻・早退 生徒の安全(事故・いじめ等)に関する状況を絶えず把握し、必要に応じて保護者と連絡を取っている。

9 特別教育活動(LHR・学校行事・生徒会活動等)に計画的に取り組ませ、生徒個々の活動についてもきちんと把握している。

LHR・学校行事・生徒会活動は担任または係主体となるため、それ以外の職員は直接的に携わっていないからとの意識からAが少ないと思われる。

8 「向上の道」等を活用して、学習の習慣化の指導に努めている。

Cがやや多いが、学級によっては向上の道の点検を担当のみで行っている場合は、Aが少なくなるとと思われる。

2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

〔改善策〕

7 欠席・遅刻・早退 生徒の安全(事故・いじめ等)に関する状況を絶えず把握し、必要に応じて保護者と連絡を取っている。

9 特別教育活動(LHR・学校行事・生徒会活動等)に計画的に取り組ませ、生徒個々の活動についてもきちんと把握している。

現在のところ主に担任または係でないと評価しづらい内容である。「関わるように心がけている。」などの文章を追加することにより、それぞれの立場で答えられると思われる。

担任だけ・係だけの仕事とならないよう、職員全体で考え、フォローし、支えあっていくような、連携した教育活動を目指していくべきだと考える。また一方では、仕事を公平に分担できるような体制の構築も図っていくべきだと考える。

〔その他の項目の今後のあり方・方向性〕

昨年度のアンケート内容に比べ、精選されているので、答えやすかったと思われる。1名回答忘れなのか、白紙があった。それぞれの目指す姿や目標があり、厳しい自己評価をされる方もいる。